

第3回仙北市将来ビジョン策定委員会会議録

- 日 時 平成23年2月9日(水) 18時10分～20時10分
■会 場 角館樺細工伝承館 研修室1
■出席者 委員長 島澤諭 副委員長 平野英子
委 員 佐々木恵美子 佐藤慎 佐藤雄喜 杉宮百合子 田口知明 藤枝優子
門脇市長 藤村総務部次長、富岡参事、戸澤課長補佐 12人
■欠席委員 佐々木美智秋 関口久美子

1 開会

- 事務局 | 只今から、第3回仙北市将来ビジョン策定委員会を開催いたします。
本日は、佐々木美智秋委員と関口久美子委員が欠席の報告があり、8名の出席です。
委員長からあいさつをお願いします。

2 委員長あいさつ

- 島澤諭委員長 | 足下の悪い中の出席、ありがとうございます。
今日は、市民所得の向上についての2回目です。
事務局から資料を準備していただいたので、より客観的な数値に基づいた、より明確なビジョンについてお話いただければと思います。よろしくお願いします。

- 事務局 | ありがとうございます。続いて市長からお願いします。

3 市長あいさつ

- 門脇市長 | 大変お世話になっております。
所得の向上策は、行政が施策転換するというレベルで、市民の方々が一緒になってやっ
ていく仕組みが無いと、いくら行政が政策提案しても決して所得の確保には繋がらないという、相手
方のあるとても重要な政策の立案に手を染めてる訳で難しい内容です。
しかし行政が、市民の方々の所得向上策を提案する姿勢は、市民の方々にしてみると、多
分、とてもありがたい仕事の柱になっていると受け止めていただけるのかなとも思っています。
市民の方々が、今の生業をやっていることが精一杯で、将来の展望とか、様々な新しい業界、
業態への変換などに、頭が回らないくらい厳しい状況になっているのですが、それを何とか肩代
わりして行政が専門的な立場から色んな面からプレゼンしていくことを是非皆さんと一緒に
やって行きたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

4 協議 案件 市民所得の向上について

- 事務局 | 協議に入ります。進行を委員長にお願いします。

- 島澤諭委員長 | それでは市民所得の向上についての2回目ということで、資料を用意していただいたので、簡
単に説明をお願いします。

- 事務局 | 1ページの資料1は仙北市の平成2年から22年までの国勢調査の人口です。22年は17年の
推計値になっています。
これを見ると、20年前と比較して20%近く人口が減っている状況です。

グラフも見ていただければ分かる通り、若年層が減ってきていることから、高齢化が進んでいると言えるかと思います。

2ページ資料2は所得の表です。これを見ると所得が結構高いと思われたかもしれませんが、実はこの所得区分は、主な所得の項目にカウントされています。従って、農業をやっているも給与収入が主であれば給与所得にカウントされる、ということがあり若干の誤解を招く恐れがあると思ひまして、資料2-1を付けさせていただきます。

資料2-1をご覧ください。「給与」は会社の給料、「営業」は個人の営業などです。あとは「農業所得」、「その他の所得」は年金が主です。「分離課税分」は土地を売ったなどです。

例えば兼業農家の場合、給与分は給与所得者に、農業分は農業所得者の項目に入っています。ですから、農業所得者の欄には、純粋な農業所得だけが入っていて、これを一人あたりで見ると22年度は24万8,000円と、給与所得よりかなり低くなっております。

続いて資料3です。これは、県で出している秋田県市町村民経済計算推計結果概要というもので、毎年出されている統計です。

この中の6ページ目ですが、これは農業・商業・工業の自治体毎の生産活動の生産量を金額で示したものです。

どこの市町村も、20年度は19年度よりも低い数値ですが、この中で仙北市を見ると、20年度は909億円です。全市町村で13番目、市では下から3番目と低い生産額になっています。

8ページです。今、お話しした生産額を1次産業から3次産業まで分類した表です。

1次産業だけが昨年より伸びていて、2次・3次は減っています。これは、20年度が19年度に比べて農業所得が上がったということですが、その要因としては、20年度の農業関係の補助金が、かなり上がっているということです。

9ページは1次・2次・3次産業の構成比です。仁賀保や小坂、井川は製造業の大きな会社があるということで、製造業のウェイトが大きいです。大潟村は農業がかなり大きくなっています。

10ページは県内市町村の市民所得です。市民所得は雇用者の報酬、財産関係の貸し付けなどの収入や企業所得などを合算して、市町村毎の人口で割った数値です。これは高齢者とか子どもの人口も含まれているので、実際の所得とは若干違いますが、仙北市は他と比べてかなり低いことが見られるかと思います。

12ページは、先ほどの雇用者と財産所得の内訳です。

13ページから15ページは、これらの説明の表です。

16ページは、先ほどの人口の関係と産業の関係のグラフです。

平成20年10月1日現在の市の人口は3万人で、年少人口が10.9%、15歳～64歳までの生産人口は56.5%。老年人口が32.5%となっています。全国平均と比べると、若年層が少なく高齢者が多いと言えるかと思います。

右側には、人口問題研究所という機関で出している将来推計人口がありますが、この表によると、20年後は30%近くの人口が減ってしまう推計になっています。

18ページからは産業体系です。

就業者比率が56.3%。これは15歳以上の方々と働いている人がどれ位いるかということです。全国平均が56%なので全国平均レベルということです。

事業所数については県内で9位ですが、他市町村への通勤者比率が19位で低いということは、例えば小さな事業所が多いとか、市内に自分にあつた職場が無いとか、そのようにとれるかと思ひます。

19ページは第1次産業の比率で仙北市は14.3%。農家人口比率は35.7%で13位ですが、専業農家比率は8.3%の25位。つまり、専業農家比率が最下位なので、大きな農家が少ないということだと思ひます。

20ページは第2次産業の比率で28.5%です。

21ページは1事業所あたりの出荷額や一人あたりの出荷額です。かなり低いということで、大きな事業所が少ないということが見てとれるかと思ひます。

22ページは第3次産業の比率です。順位は7位と上位ですが、小売業の一人当たりの商品販売額や、一商店あたりの商品販売額が低いということは、これについても製造業と同じく小さな商店が多いということが見られるかと思ひます。

以上で説明を終わります。

島澤諭委員長

ありがとうございます。引き続き私が用意した資料について説明したいと思います。

最初の将来人口推計は、先程お話しがありましたように国の機関が推計したもので、これは2005年の国勢調査に基づいた推計です。

国の推計だと2010年の仙北市の人口は29,991人の予定だったんですが、実際は、速報値ですが29,657人で、大体1%位の334人が国の予想より減っているということなので、2~3年後に新しい将来人口推計が出る時には、全てが1%位ずつ下方修正されると思います。

ですから、2035年は19,000人もいない状況かと思いますが、18,000人いれば良いかなというところかもしれません。

内訳ですが、人口規模は2010年と比べ2035年は32%ポイント減ります。

年齢構成は、0歳~14歳の年少人口割合が2035年には8.3%。15歳~64歳の生産年齢人口は、実際には高校や大学に通ったりする人がいるのでこんなにいないんですが48.1%になります。その代わり老年人口割合、現在は65歳以上がそれに該当する定理ですが、2005年若しくは2010年の30%位から2035年には43.5%。これは、先程の資料をご覧くださいと、平成20年度の上小阿仁村の高齢化率にほぼ匹敵しています。

2035年には、上小阿仁村のような高齢化率になっているということだと思います。

更に75歳以上の割合を見ますと、2035年には29.8%ですから、ほぼ3人に1人が75歳以上のお年寄りになります。平野先生はご存知だと思いますが、75歳以上になると健康のリスクが非常に高まりますので、そういった面でも影響が大きいのかなと思います。

若い人が減りますので、例えば、新しいことをやろうとか、新しい技術についていける人が減っていきます。

裏のページには、この人口推計を前提に現在働いている人の割合をそのまま当てはめた場合の、産業別で働く人の将来人数が機械的に計算されています。

1次産業の農林水産業ですが、仙北市は水産業は殆ど無いので農業と林業だと思いますが、2035年になると2005年と比べて40%位の人が減ります。つまりは経済の担い手、農林業の担い手が4割以上減ってしまうという状況です。

第2次産業も同じで48.5%減ります。

サービス業の第3次産業も48%減ります。先程、75歳以上の方が3人に1人位になるとお話ししました。福祉などで人手が必要ですが、それを誰が支えるんだということになるかと思いますが。

どの産業も2005年若しくは2010年のレベルを維持するとした場合、人手の面で言うと、とても厳しい状況だということになります。

資料がもう1枚あり、これは産業の状況についてですが3次産業が非常に高くなっています。観光があるからだと思いますが、仙北市の特徴としては3次産業の比率が高いということだと思います。

ただ前回、2次産業とか6次産業の話で農業という話がありました。製造業についての内訳の中での食料品製造業つまりは食品加工業なんですが、仙北市の製造業全体に占める食料品製造業の割合が8.6%で、これがどの位の大きさかと言うと、秋田県の平均が6.5%なので県の平均よりは食品加工業が多くなっています。

ただし、近隣の県を見ると、青森県では18.6%、岩手県では14.2%、宮城県では17.3%、山形県で9.5%で、秋田県はもとより仙北市でも遠く及ばない状況ですので、食料品加工業・食料品製造業が非常に弱いことが見てとれるのかなと思います。

私の資料についての説明は以上ですが、非常に暗い数値が多く、この後どう議論していけば良いのかなと思うのですが、これらの数値は、これまでの状況が続いた場合の数値なので、この会議で明るいビジョンが出来て実行してもらえると、また違った見通しが出ると思います。

人口というのは面白いもので、減り始めると、どっと外に出ていくなされてるので、多分、2035年にこんなに残っていることは無いと思います。それをいかに防ぐかということが、今日の中心になるのかなと思います。

門脇市長

国の地方交付税制度の見直しがあつて、例えば現在の仙北市一般会計、つまりは普通に行われている生活に直結している会計は180億円位ですが、その中で地方交付税の占める割合が80億円位だと思います。

平成17年に合併して、それから10年間は旧3町村ごとに積算した合計額になっています。この位の規模の町だとこの位のお金が必要だから、その中のこれ位は国から手当するよということです。ところが11年目からは、一つになったんだから今までのように面倒は見ませんよと、段階的にどんどん金額が減らされていきます。90%、70%、50%、30%、10%と抑える金額が大きくなっていきます。

そうすると、政権の交代とかでボーナス的なものはあつても、国からのお金がこれ以上増える可能性は殆どありません。

そして国の経済が、今のグローバルな社会の中でどれだけ生産量を確保出来るかという、実質的には中国がGDPでも世界2位になっていることもあつて、韓国、台湾、インドなどから色々な弱電関係の話がどんどん大きくなっていきます。得意分野としている日本の工業製品のシェアは、もしかしたらどんどん落ちてくるかもしれません。

そうすると、国自体に体力が無くなって財源が無くなってしまふ状況になります。人口が減っていくから、かかるお金が少なくて済むという話もありますが、多分、国とか県からの補助金は相当な金額が落とされてくるだろうと思います。財政的な話をすると、市の収入が減っていく訳です。

そうすると、市税とか法人税とかを納付していただかないと、事業が出来なくなってきます。そのため、2035年の指数が出てますが、今から10年位かけて収入を増やということになります。

今まで行政は、民間の仕事を儲けてくれとはなかなか言いませんでした。でももう言わざるを得なくなっています。何故かと言うと、行政としての収入が無くなっていく可能性がとても高いからです。5年10年かかっても今からやっついていかないと市は破綻していきます。産業の担い手が少なくなっていくと、家族経営とか企業経営の成り立ちが難しくなっていくと同時に市の財政も破綻に向かっていく、ということが今の状況では予測されるのでどうするかということになります。

島澤諭委員長

ありがとうございます。所得の状況が悪い、あるいは子どもを持たないので人が減っていくということがあると思います。鶏が先か卵が先かだと思うのですが、やっぱり若い人がいないと新しい物も産まれたりしないと思いますので、どうやって人が減るのを止めるか、生まれないということよりも、生まれた人が出て行く状況をいかに止めるかということが重要だと思います。その為には、経済をどうにかしないといけない、ということで堂々巡りになってしまいます。

前回、農業の話があつて、それには専業農家の比率が非常に深く関わってくるのですが、若い農家ってどの位いるのでしょうか。

藤枝優子委員

跡取りとして専業で20代から頑張っている人は、いないに等しい位かもしれません。自分が分かる人では3人くらいです。

佐藤雄喜委員

自分が分かる人は2人くらいです。失礼な言い方かもしれませんが、20町歩位やらせてもらっていますが、それでも専業農家としてやっていけません。

平野英子委員

加工工場みたいなのが誘致出来るような余ってる土地などはあるのでしょうか。

私の子どもが電子関係の仕事をしています。

ここは水がキレイだから何か出来ないだろうかと聞いてみたら、「大学とか企業と提携して、バイオ燃料やバイオ肥料などを作る。これから小麦の値が上がったり加工品の値が上がったりした時に、どんなところでも出来る食品とかの研究を日本の企業は始めていて、そういう事にも電子機器が必要で、それらはキレイな空気のところでは出来ないんだよ。そういうの呼んで来たらどうか。」ということでした。

それを呼ぶには、土地を安く提供しますよとか、建築費も安くするように頑張ってもらって、東京近郊よりこちらの方がよいですよ。というような形で勧めたらどうでしょうか。そこに常駐するスタッフも必要でしょうし。

ある一部の場所はそういう工業特区というか、第2次産業に関係した何かを作ったりしたらどうでしょうか。

佐藤雄喜委員 仙台を例にすると、移住してくれる方には金利を安くしますとか、工場を建てるにしても、国と県で何割かを補助したりしているんじゃないんですかね。

門脇市長 今は、かなりの条件闘争みたいになっていて、他の県よりも秋田県はこれだけすごいぞとか、他の市町村よりも仙北市はこれだけすごいぞという様々なサービスを展開する条件闘争になっています。このようにしても来てもらえません。

佐藤慎委員 やっぱり立地条件とか不利ですよ。高速道路無料などでちょっと良くなったかもしれませんが、それでもちょっとだけだと思います。

門脇市長 田沢の学校体育館で水耕栽培の実験を始めている人がいるんですが、暖房費で全く採算が合わないという話をしていました。冬場はそういう状況でも、夏場は冷涼地なので逆にとても良い環境だということもあるんですが、一番の問題は消費地に遠いということで、流通コストで負けてしまいそうな気がします。

平野英子委員 そうだと思います。流通する「品物」では無くて、品物を作ることの前段階の研究チームスタッフを集めた研究棟みたいなものをこっちに作って、品物は国内で作るようなことをしたらどうでしょうか。

土地などのコストが安いからこっちでやってよとか。ここからコストをかけて品物を送るのでは無くて、その基になるような物を開発したらどうでしょうか。

その研究に若手も見に行って、「こうやって農業をやるんだな」と、専門知識を得る若者も育てながらということは出来ないのでしょうか。

門脇市長 全く同じ考え方です。東京都内の大学関係者などとお話しをすると、「とても良い所ですよ」とは言ってくれます。ですが、交通インフラと情報インフラの話になると弱い訳です。例えば、超高速ブロードバンドが出来ないなんていう話は、今では珍しいんじゃないですかみたいな話になってしまいます。

そういう状況の中で、今やっと平野先生みたいな考え方になってきて市が動き始めている状況です。他のところなどは、ずっと早くマンパワーの獲得だったり研究分野への進出だったりをやっているところがあって、条件的に仙北市はかなり後ろの方です。

藤枝優子委員 雪が降るのでビニールハウスの中で作物を育てています。寒さに強い物を植えていますが、収穫するまでに日数がかかるので、それだけでは家の生活が成り立ちません。そこで何処のお父さんも冬場の仕事を探して努めに出ています。

この状況で子どもに農業を継がせて、さあ冬になったので何ヶ月か遊んで暮らせというのはちょっと無理があります。冬の間勤めるところがあれば良いのですが、こっちはなかなか勤めるところがありません。

佐藤雄喜委員 農業だけで食べていけないというのはそこなんです。20町歩やっていると言っても、12月から3月まで4ヶ月は何も仕事がありません。

藤枝優子委員 桜の季節に来た観光客は「良いところですね」って全員が言ってくれます。ぽかぽか陽気に誘われてみんなが「良いところですね。リタイアしたらこっちに住みたい」と言われます。実際に住んだ人もいますが、冬になったら屋根にこんなに雪が上がるのかとか、マイナス面が大変出てきます。そこで、冬に来た観光客は「こんなに寒いと思わなかった」と言いながら直売所に入ってきて来たりします。

- 田口知明委員 | そこを割り切って、ここの地域が良い時期だけ住んでもらうという発想もあるのではないのでしょうか。
- これからは資産を沢山持った高齢者が増えてくると思います。アメリカ人じゃ無いですが、夏は避暑地で過ごして、冬場は暖かい所に住むとか。別荘と言うほど立派な物は必要無いので、その時期だけその人たちはここで生活してもらおうということです。冬場の屋根の雪下ろしとかの維持管理という仕事生まれるし、当然に別荘を建てるという需要も生まれてくるのかなと思います。雪のことを考えると1年間通して住んでもらうのは無理だと思います。
- 藤枝優子委員 | そうすると、今度は交通の便について「電車がこんなに来ないと思わなかった」とか、一本乗り遅れてしまった時に「次の電車がこんなに来ないと思わなかった」と言われたことがあります。
- 街の中を歩くにも、すぐに乗れる物がない状況です。
- 田口知明委員 | とにかく雇用、仕事が問題です。
- 藤枝優子委員 | 仙北市の人口を見ても、0歳とか10歳代が少ないのは分かるのですが、20代の人たちがこれ位しかいないというのは、やっぱりみんな仕事を求めて外に出て行っていることですよ。一番弾けて楽しんでいるのは20代かなと思うのですが、そういう人たちがいません。
- 佐藤慎委員 | 前回はあった話ですが、一番楽しみたい世代がこの街に住んで楽しくないから、楽しいところを求めていくことになると思います。
- 佐藤雄喜委員 | お祭りの3日間だけではなくて、どれだけ戻って来させるかでしょうね。。
- 杉宮百合子委員 | やる気になっている若い人たちもいるんです。例えば、龍神太鼓の人たちとかも一生懸命なんです。練習場所を探し、一生懸命やっているんですが、近所でうるさいと言われて、太鼓の代わりに板に発泡スチロールみたいな物を敷いて、それで叩いているんです。
- やる気になっている若者を押さえつけるようなことではなくて、もう少し盛り上げたほうが良いんじゃないかと思います。
- 藤枝優子委員 | 夜に太鼓を叩かれるとなると、気持ち分らない訳では無いです。
- 門脇市長 | 花葉館で吹奏楽やマーチングバンドなどの合宿を受け入れています。なぜかと言うと、西長野小学校で演奏の練習が出来るからです。あそこは周辺に民家が何も無いのでOKなのです。
- 太鼓とか器楽とかの練習だったらあそこは最高の貸しスタジオです。
- 佐藤慎委員 | 合宿が可能なスタジオですね。
- 藤枝優子委員 | 低予算で頑張りたい人がいるとしたら、あの中の一室を宿泊出来るくらいにするのも良いかと思えます。
- 門脇市長 | それについては、実際に西長野の方々、地域運営体の方々が考えています。
- 藤枝優子委員 | 国道から学校までの道路は、山の淵を通り交差出来ないところがあったり、駐車場が無かったり、そういうのに手をかけてもらえれば、西長野のあそこはとても良いと思います。
- 門脇市長 | そういう部分は政策的に若い方々の活動を応援しようということで、道路改修してみたり、駐車場を作ってみたり、体育館の改修とか、教室の改修とかがイメージ出来ますよね。
- そして、例えば発表会の最終日は地域の方々の為に演奏したりとかも出来そうです。
- 佐藤慎委員 | 若者の定着について、子どもの頃って都会への憧れが誰でもあると思います。

そこの教育の仕方であって、地元は良いもんだよということ、地元に残ることへの憧れとか、かっこよさだったりとか、そういうことを小学生の頃から洗脳と言うか、教育していくことは、とても大事だと思います。

そうじゃないと、どんどん出て行ってしまふので、そういうのを教育委員会とかでやったほうがいいんじゃないでしょうか。

門脇市長

教育委員会の、例えば23年度の教育方針は、言葉は悪いですが洗脳させて、地域に残る、戻って来るといふような、そのくらいの心を植え付けることも考えられます。

藤枝優子委員

うちでは幼稚園の子どもたちにサツマイモ掘りの体験があります。小さいスペースなんですけど年長さんが100本近い苗を植えて、秋には園全体で掘ります。そうすると、すごい感動があるようです。

幼稚園バスで幼稚園じゃない所にお出かけして、それをやるということが楽しいみたいで、「大きくなったら農家のお嫁さんになる」と言ってくれる子がいたりします。

家の砂しか触ったことの無い子が、手が汚れると嫌がっていたのに、一生懸命掘って採れたらすごく楽しんで、農業が楽しいと言ってくれました。

佐藤慎委員

そういう気持ちで、大人に成長するまで持ち続けることが出来ればいいんですね。

藤枝優子委員

小学5年生になると稲の勉強があり、その時に農業に触れる感じですが、1年生から4年生までは全くありません。

門脇市長

良く聞くことですが、交流プロジェクトなどで来る首都圏の子どもたちの方が農業に詳しいです。

藤枝優子委員

うちに来てくれた子どもたちもすごかったです。田んぼに裸足で入ったということをあまりに感動してしまったようです。

佐々木恵美子委員

こっちだと山があるからスキーだというのと一緒に、農業体験教室を1年に1回、1年生から6年生までやるというのも良いかもしれません。

藤枝優子委員

学校の先生たちは大変かもしれませんが、プランターに植えるだけじゃなくて、何らかの農業に触れる機会があっても良いかと思います。

杉宮百合子委員

西明寺小学校ではやっていますよね。色んな野菜を植えたり、毎朝、畑に行ってみずかけをしたりしています。

藤枝優子委員

角館小学校はそういうのが無く、中庭も無くなったので、プランターを使って行っています。畑になるのとは全然違うサイズの野菜ですが、一応の収穫をしたりというのはやってたりします。

佐々木恵美子委員

申し訳無いんですが、農家はすごく大変だというイメージが大きくなりすぎて、農家のお嫁さんはヤダみたいな感じにみんなが思っているんじゃないかなと思うことがあります。

小さい時から、農業が楽しいことが分かれば、先程のお話のように農家のお嫁さんになろうとか少しずつ思っていけるので、小さい頃から授業で取り入れていけば良いのかなと思います。

平野英子委員

理科実験の一環として、そういうのを全国から募集してみてもどうでしょうか。

門脇市長

お祭りに帰ってくる人がとても多いという現実はあるんですが、これはすごい力だと思います。お祭りとかっていうのも、若い方々を引き留める大きな魅力ですよね。

- 佐藤雄喜委員 お祭りを2回やったらいいんじゃないって誰かが言っていましたよ。
- 佐藤慎委員 週末にやれば良いのではという話も昔からあって、実際にそれを実行した時期も過去にあったのかもしれませんが、結局は宗教行事ですから、毎月8日がお薬師さんのお祭りの日なので、日程をずらすということは、まず有り得ないということでした。
やっぱり、それに沿ってやっていくしか無いということで、それを年2回とか、それだったら別の事を春にやるとかのほうが良いと思います。
- 田口知明委員 お祭りは、ある意味で洗脳ですよ。小さい時からすり込んでいるんですよ。
- 杉宮百合子委員 何ヶ月も前から、みんなが集まってワイワイやっていて、それも楽しいですよ。
- 平野英子委員 公民館などでの練習だと、辺り一面に音が聞こえてきて、うるさいという感じより「やってるな」という感じです。
- 佐藤雄喜委員 毎年のことなので、そろそろ始まるなあといった感じだと思います。
- 藤枝優子委員 我が家は役場のあたりから離れていますが、風に乗って聞こえてくると子どもたちが騒ぎ出します。
- 門脇市長 心がざわめきだすんですよ。良く分かります。
- 佐藤慎委員 子どもの頃は本当にそうです。親の言うところは聞かなくても、責任者の言うことは聞きます。
- 島澤諭委員長 そのお祭りは内輪のものですか。それとも、外から見に来ても良いんですか。
- 門脇市長 是非見に来てください。実はずっと不思議に思っていたことがあって、角館のお祭りって自分たちでは万国みんなが知っていると思っているんですが、結構違うんですよ。
桜は結構な人が知ってるんです。で、桜も良いけど、秋のお祭りも良いですよと言うと、知らないって人が一杯いるんです。もしかして、意識的に外に出していないということでしょうか。
- 佐藤慎委員 そうでは無いです。観光客として見て、おもしろい祭りかとなると、そこは分かりません。
- 島澤諭委員長 私はまだ見たことがありません。いつやるんですか。
- 門脇市長 9月の7日・8日・9日です。
- 田口知明委員 商工会青年部でライブ中継を4年間やっています。自分は田沢湖の人間なので、角館のお祭りのことは良く分かりませんが、ずーっと撮影しています。
交渉してる時とか時間が長くて、祭りのことを知らないと全然おもしろくないんです。
- 佐藤慎委員 やってるほうは、それが楽しかったりするんです。
- 田口知明委員 だから観光客的にはどうなのかなと思います。
- 藤枝優子委員 観光客の人に「いつからやるんですか。3時間も経ってますよ」なんて言われたりします。
- 佐藤慎委員 それは、観光用激突を時間と場所を決めてやっていますよね。

	観光客の皆さんには、それを見てもらって楽しんでいただきたいと思います。
佐藤雄喜委員	観光用は、中日しかやらないので、もっとあったら良いのかもしれませんが。例えば観光用を3日間やるとかはどうでしょうか。
佐藤慎委員	それは無理です。
門脇市長	お祭りの本質に関わってくる部分なので、難しい面があると思います。 自分たちが心配しているのは、今はまだまだそうやって山車を動かす人間がいたり、お囃子があつたりで、状況的には良いんです。例えば、もっと経済状況が厳しくなって、会社を休んで祭りに出られなくなってしまうということになると、山車廻しが出来なくなる可能性があります。このため、週末にお祭りの日程を考えるべきではという話が出たりします。
佐藤慎委員	自分もそう思ったことはあるんですけど、それはやっぱり7日・8日・9日でちゃんとやっていけることを考えたほうが良いのではないかと思います。 お祭りを利用して観光客に沢山来てもらって、外貨を落としてもらうことを考えることはとても大事だと思います。
島澤諭委員長	仙北市については、角館でも田沢湖でも西木でも良いんですが、春のイメージです。夏は田沢湖などもありますが、夏の田沢湖は段々と人が減ってきているイメージがあつて、春・夏・秋・冬を通じて観光が出来れば、少し状況が変わるかなと思います。 お祭りは9月ということなので、秋になります。 今はお年寄りが多くなってきています。JTBとかの話を知ると、彼らは今までのような団体型では無く体験型の観光を好むそうです。体験型観光の中には、学習型の観光というのがあるそうなので、お祭りがやや難しいものであれば、背景とか動作などを勉強してもらいつつ、楽しんでもらう、というのもあるのかなと思って聞いていました。 そうすると、春と秋の観光が確保出来るのかなと思います。
佐藤雄喜委員	そうすると冬は、例えば紙風船を作ってもらったりとかができるでしょう。絵を描くと2〜3日位はかかるのでしょし、作ってもらって自分たちで上げるようにしたらよいでしょう。
門脇市長	今までに、角館のお祭りの交渉ごと、要するに通行の優先権を争っているんですよという話とかを観光客の方々にしたことってありましたよね。
佐藤慎委員	やったことがあります。観光用をやっている時に、観光客に状況を説明するというので、ハンドマイクを持って説明したんですが、訛りが強いし、ハンドマイクの音は割れるので、誰も理解出来ていないだろうなということがありました。 役場の前で、ちゃんとした敷席を作ってやったこともあります。
島澤諭委員長	映像がちゃんと撮れていれば、実際のお祭りを見る前に、映像を見つつ解説をしてもらって実際に望むと、彼らに長く滞在してもらえるのかなと思います。
平野英子委員	山車の車廻しにすごく興味を持つ50代60代の男性っていますよね。
門脇市長	やっぱり参加型のお祭りには成り得ないのかなと思うところがあります。 失礼な言い方もかもしれませんが、引き手だったり、押し手だったり、担ぎ手だったり、色んな手があると思いますが、観光客がそういう参加の仕方は出来ないのかなと思います。
島澤諭委員長	だからこそその学習型になるのかなと思います。

佐藤慎委員	参加型というのは、例えば「ねぶた」だったりといった感じでしょうか。 仙北市の観光課でもやっていますよね。はんてんを貸して曳山に参加しようみたいなことを。ぶつける時じゃなくて、上覧の時とかですが。学生の団体さんとかが大喜びで引っ張ってくれたりします。
島澤諭委員長	冬はどんな祭りがありますか。
門脇市長	火振りかまくらがあるし、紙風船があるし、小正月行事が20種類位はあると思います。
島澤諭委員長	体験型で長期滞在してもらえる仕組みを作って売り出せば良いのではないかと思います。 多分、皆さんにすると当たり前のものなので、その価値に気づきにくいのかもかもしれませんが、外から見るととても新鮮だと思います。 変な話ですけど、それをいかに商品化するかだと思います。
平野英子委員	観光コーディネーターみたいな方に一度見てもらって、というのは出来ないんでしょうか。 ちなみに、病院には今度、専門の方が来ますよね。 同じようなことを、観光の専門家何人かに来てもらって、プロデュースしてもらおうとかはどうでしょうか。
佐藤慎委員	角館のお祭りのような祭りは、他にはそんなに無いと思います。お祭りの魅力が、他のお祭りとはかなり違うと思います。 そういうのを伝えたいと思うし、それを知ると見に来る人が増えるような気がします。 ルールなども多いので伝え方が難しいのかもしれない。
島澤諭委員長	JTBとかJRに相談すると、何か作ってもらえるものですか。それとも、こちらからある程度の物を作って持って行く必要があるのでしょうか。
門脇市長	商品制作については今、市のTIC[ツーリストインフォメーションセンター]というのがあり、今年あたりから本格的に商品制作が進むと思います。
杉宮百合子委員	テレビとかで宣伝すると景色とかもキレイですよ。 自分が住んでいる仙北市ですが、色んな場所がテレビに映ると行きたいと思ったりします。
門脇市長	映像は効果がありますね。
藤枝優子委員	観光客から内陸線の景色の写真集を逆に見せてもらったりして、びっくりするほどキレイな景色が載ってました。良いところは沢山あると思います。
門脇市長	観光資源の再発見などを通して、子どもたちや若い方々に、魅力を認識してもらいながら滞在というか居住してもらおうという流れにまとまりそうな感じではないでしょうか。
田口知明委員	それはまた違った話かと思います。
平野英子委員	今のは第3次産業の話ですよ。
島澤諭委員長	両方だと思います。そのお祭りを見つつ、参加したいと思った時、それが産業になっていれば職が出来る訳ですから。そうすると、出ていなくてもお祭りに参加出来ます。 今だと、春しか無いような感じがしているので、通年化という言葉は変かもしれませんが、春・夏・秋・冬になると、ある程度実入りが良くなるのかなと思います。

藤枝優子委員	市内の色々な観光を説明出来る歴史案内人みたいな人がいればいいのかなと思います。そういうのを頑張ってくれている人たちがお祭りも一緒に説明出来ればいいのではないのでしょうか。
門脇市長	高校生とかに歴史案内人になってもらうことは出来ないものではないのでしょうか。
平野英子委員	自分たちも学びながらみたいな感じでしょうか。
藤枝優子委員	ボランティアなら良いんでしょうけど、アルバイト代が入るとなると、学校の許可が必要かもしれません。
佐藤慎委員	一時、高校などでボランティア活動が必須になったりしてた気がしますが、あれはまだあるのでしょうか。
藤枝優子委員	あるにはあるんですが、部活単位だったりです。角高のサッカー部は、JA秋田おばこさんで畜産共進会のスタッフさんに頼んだりしています。
門脇市長	角高とか南高とかは、歴史案内人になれるとステイタスになりそうな気がします。モテる一つの要因に成り得る気がします。高校生用の歴史案内人育成講座もあるのかと思います。
佐藤慎委員	もしも高校にボランティアの必須とかがあれば、歴史案内人が高校に行って興味のある生徒に講習を開いてみる事が出来るとすると、連休とかに対応出来るかもしれません。学生のボランティアなので料金をもらわずに。それだったら、多少の間違いとかも大目に見てくれるのではないのでしょうか。
藤枝優子委員	小学校4年生は、必ず「町の案内人」をやるんですが、自分から声をかけて「5分だけ話を聞いてください」みたいな感じでやっています。小さい子どもたちがやると、年配の観光客の方々はずごく喜んでくれます。
門脇市長	高校生バージョンとして、別の仕掛けのほうが良いのかもしれない。
藤枝優子委員	子どもたちは、例えば「天皇陛下が産まれた時に植えた桜ですよ」とかの話をすると興味を持つようです。家に帰って来てからも、文面を何回も繰り返し読みだしています。
佐々木恵美子委員	子どもたちののはとても好評で、お手紙をいただいたりします。
佐藤慎委員	町研では蔵巡りを明後日から行いますが、自分と同年代の人間が10人位でやっているの、本業を一番にしなければいけない人たちばかりでとても大変です。去年やって反響が大きく、期待されている部分も分かっていますが、容易では無いです。
田口知明委員	ずっと張り付いているんですね。
佐藤慎委員	それはアルバイトなどで賄えるんですが、企画したりとか色々調べたりする作業があります。やったほうが良いと思っていることと、仕事の絡みとかでやりづらいことがあったりします。本当はもっとこうしたいとか、こうしたほうが効率的だという声が出てそれが出来なかつたりします。
門脇市長	そういうのを、高校生たちと一緒にやってみることは出来ないのでしょうか。

- 佐藤慎委員 | 今回は中川小学校の子どもたちに協力してもらって、街歩きをして写真を撮ってもらって、良いところ悪いところを聞いてみたりしています。
- 門脇市長 | 目線の話なんです、大人が企画して、大人が色々なイベントを開催するんですが、意識的に子どもたちとか高校生とかを巻き込むというのを、気持ちの何処かに持っておくのが良いのかもしれない。
そうすると、何の事は無いんだけど、そこにいる子どもたちの体験が膨らんで、何かしらのきっかけになるかもしれません。
- 藤枝優子委員 | 例えば、子どもが撮った写真が飾られていたりすると、その親やおじいちゃんおばあちゃんが、ちょっと見てみようかという感じになります。
- 門脇市長 | スマイルバスの停留所に看板が立っていますが、その看板の絵を子どもたちに1枚ずつ書いてもらったら良いのではという話がありました。相当な枚数があるし、おもしろいねという話をしたら、それだと自分の作品が残るので、自分がここに産まれて生活している証になるという話があって、なるほどなと思ったことがあります。
- 藤枝優子委員 | 国体の時に、各県の旗を子どもたちが書いたりしました。
スキー場に行った時、子どもがそれを見つけたら「俺が書いたやつだ」って喜んでいました。
他県から来る人たちへの何らかのもてなしというか、何か嬉しくなるような、何かがあっても良いのかなと思います。
- 佐々木恵美子 | 100kmマラソンで沢山の人が来るので、その時にお金を落としてもらえそうなことがあればと思ったことがあります。
- 田口知明委員 | 人は来るけどお金は落ちないっていうのは一つの問題だと思います。
- 佐藤慎委員 | 話が逸れてしましますが、先日の夜8時30分頃に蔵伝のポスターを配っていました。
ポスターをお願いして店を出たら、自分と年代代くらいの外国人男性観光客7人が困っている様子だったので声をかけました。レストランを探しているんだけど、現金を持っていなくて、クレジットカードが使えるところを知らないかということでした。
早速、近くのお店に聞いてみましたがクレジットカードは使えないということでした。そのお店に他店のことを聞いてもらったんですが、クレジットカードが使えるかどうかは分からないということでした。姉に電話してみたら、観光協会に聞いてくれましたが、分かりませんでした。
結局見つけられなくて、「ゴメンね」ってことになりました。
後になって、使えそうな店を思い出したりもしたのですが、その時に見つけられなかったことが残念でした。観光地として、クレジットカードが使えないってどうなのかなって思いました。
- 田口知明委員 | 「これで良かったら来てください」っていう感じだと思います。
沢山の外国人が来る観光地ですけれども。
- 佐藤慎委員 | そうなんです。秋田県で一番の観光地を目指そうとか言っても、ちょっと問題かなって感じがします。
- 門脇市長 | クレジットカードのシステムを導入するのは、どれくらい費用がかかるんですか。
- 佐藤慎委員 | 5%くらいの手数料が発生するらしいです。でも、それでお客さんが増えるなら良いような気がします。
- 藤枝優子委員 | カード会社にもよるんでしょうが、一ヶ月3万円位の加盟料がずっと必要だと聞きました。

門脇市長 最近、中国のカードで何かありましたよね。

田口知明委員 「ぎんれんカード」ですね。

門脇市長 それを使えるところは無いのですね。

佐藤慎委員 無いと思います。VISA とアメックスくらい使えば充分かと思います。

門脇市長 特殊な装置が必要ですか。

佐藤慎委員 特殊というか、カードを読む装置は必要です。

門脇市長 初期投資が莫大に必要なのですか。

田口知明委員 それほどでも無いと思いますよ。

藤枝優子委員 加盟すると貰えたりするかもしれません。その代わり、毎月幾らかの加盟料とかが必要になるのかもしれない。

佐藤慎委員 実際のところ、個人の飲食店とかだったら大変だと思います。
でも、観光地なら、例えば観光協会とかでカード会社との折衝とか、団体契約的なことはできるのではないのでしょうか。

門脇市長 そういうやり方があるのかなと思って、色々伺っているところでした。

田口知明委員 とても重要なことかもしれません。旅行をしている人間にすると、現金を沢山持ち歩いている訳では無いと思います。例えば、衝動的に買い物をしようとしたら手元に現金が無い場合は、カードで買えるなら、そこで買い物をすると思います。

門脇市長 もしかしたら、今まで誰も気が付かなかった話題かもしれませんね。

佐藤慎委員 たまたまそういう場面に出くわしたので、問題なのかなと思ったところです。

藤枝優子委員 富山から来た老夫婦は、車で旅行に来てごはんを食べたいと思ったけれども、角館には駐車場が無くて、何処に行ったら良いですかと聞かれたことがあります。すぐには思いつきませんでした。
観光パンフレットも、駐車場の標記が無くてと言われることがあります。

平野英子委員 ランチを食べたいと言われると、困る時がありますね。そういう盲点って沢山あると思います。

佐々木恵美子 この向かいには昔は駐車場でしたが、今は駐車場に出来ないんですか。

門脇市長 色々ご意見がありまして、今は発掘調査が行われている関係で規制があつたりしています。
昔、駐車場として使っていた時は、伝承館に沢山のお客さんが来てとても良かったという話を聞くことがあります。でも、それを残念に思う気持ちがありつつも、そこを駐車場にしない理由も色々あるようでした。
駐車場が無いのは、角館の商店の今の状況でいくと、みんなが当たり前だと思っています。、ここら辺ではそれで済むんですが、外からのお客さんが来た時には、結構な不便を感じているという話は聞いたことがあります。

- 田口知明委員 一昨日、日銀秋田支店長の話聞いたのですが、今の日本の金融資産は1,400兆円あるそうで、その内の8割は50代以上の人たちが持っていて、40代以下の人たちは住宅ローンなどで債務超過の状態だということでした。
 ということは、観光でもそれ以外でも50代以上の人をターゲットにして満足してもらえれば、より効果大きいということになります。
 今まで色々な話をしていますが、例えば、その50代以上の人たちが旅行に来た時に、また来たいなと思ってもらうことが必要だからこそ、例えば、クレジットカードを使えるようにしたほうが良いのではないのでしょうか。
 観光に携わっている方々の集まりである観光協会があるんだし、何かしらの決まりとかでは無いですが、「こういうことを基本的なサービスにしましょう」とかということとか出来ないのかなと思ったりします。
- 門脇市長 今までの話を、私なりにやや暴力的に整理すると、「お年寄りには優しく・お年寄りを優しく迎える、若者を離さないまち」になります。
- 佐藤慎委員 若者は離しても良いんですが、必ず戻ってくるようなシステムですね。
- 田口知明委員 大きくなって戻ってきてくれれば一番良いことですね。
- 佐藤慎委員 ずっと居るとその粋だけの生活になってしまいます。
 一度出ると絶対に戻りたくないという人もいますが、でも、外を見せたほうが良いと思います。
- 杉宮百合子委員 私も出てみたくて出たんですが、でもやっぱり、都会にはずっとは住めないなっていうのがありました。50歳くらいになったら戻ってきてゆっくり暮らしたいな思いました。
 若い時は、例えば電車が3分に1回来るのが便利だったり、すぐに何かを食べられたり、仕事もあります。でも、ものすごく忙しい。お金は入ってくるんですがとにかく忙しくて、自分にゆとりがありませんでした。それでふと思ったときに、もう少ししたら地元に戻ろうかなって思いました。
- 藤枝優子委員 話が変わってしまいますが、交通の便が無いから、かなりの高齢者になっても車を運転して、運転が危ない人がいたりします。そういう面でいくと、車を手放せないことがお年寄りには優しく無いまちづくりになってしまっているのかなと思ったりもします。
- 佐藤慎委員 そういう面を考えていくと、まちづくりの方向に必然性が発生してくると思います。
- 門脇市長 それは、政策の基本的な部分でして、お年寄りに徹底的に優しいまちづくりにするんだということ。それは地元の人たちにもそうだし、来訪者にとっても当然に優しいまちづくりになっていくので、とても大事なことです。
- 佐藤慎委員 人が減っていくとまちがコンパクトになっていくと思います。そうなれば、過疎というか人口の少ない所、不便な所からどんどん廃れていってしまうと思います。でもそれは、仕方がない部分もあると思います。
 その人にしてみると、自分が生まれ育ったところだからとか、俺の田んぼだとか、俺の土地だとか、気持ちはとても良く分かるのですが、トータル的な「まち」っていうのを考えた時、それについては将来を見越して整理しながらやっていくようなことも、辛いことだとは思いますが考えなければ駄目なのかなと思います。
- 門脇市長 昔、過疎対策で集落移転事業とかを全国で散々やったんですが、結局どうなったかと言うと、お年寄りは集落移転に反対で居座るという状態です。
 都市部の生活を便利と思うのか、周辺に田んぼや畑があることを自分の生き甲斐としていくか

は価値観の違いなんです、どっちも否定しないで、どっちも選べるんだっていうことは必要だと思います。

選ぶのは自分なんだって言うことなんです、でも政策的に、例えばお金のかけ具合が都市部に集中して行かざるを得ないという状況は、行政としていつか判断していかなければいけない気もします。

藤枝優子委員 我が家ではおじいちゃんもおばあちゃんも80歳を超えていて、電動車いすに乗っているんですが、歩道を歩けないらしくて、車道を歩いています。

佐藤慎委員 それは道交法上の問題ということですか。それとも物理的なことですか。

藤枝優子委員 交差点になると、縁石が内側まで丸まっているから、車道を歩くとどこまでも真っ直ぐいけるといことです。

門脇市長 あの車は、歩行者側の交通法なはずですよ。車両では無いはずですよ。

藤枝優子委員 そうなんです、交差点が大きくなればなるほど、歩道を走ることが不便なようです。前しか見えていないからかもしれませんが、車道を真っ直ぐ走ったほうが良いようです。

佐藤雄喜委員 踏切も大変ですよ。いつだったか、引っかかっているのを見ました。危ないなと思って、手助けしたことがあります。

藤枝優子委員 私が送っていくと駐車場に車を駐めるから店まで歩く距離が長くて大変だということでした。車いすだと店の真ん前まで行けるからって、雪があっても車には絶対に乗りません。

門脇市長 今の話を聞くと、お年寄り層に徹底的に優しいまちづくりをすることの経済効果やコストパフォーマンスが高いのかもしれないです。委員長としてはどう考えますか。

島澤諭委員長 まちづくりに関しては、次の会にでもと思っていたところでした。

将来ビジョンを考える上で、仙北市内の集落毎の人口密度と、その地区毎の高齢化率とその推移とかが分かれば良いのかなと思いました。ビジョンで必ず触れなければいけないまちづくりの問題だと思っています。それは回を改めて、もっと集中的にお話したほうが良いのかなと思って聞いていました。時間的な制限もあると思いますので。

今までここで議論した観光については、TICというところが、すぐに出来ることもあれば、少し時間がかかることもあると思うんですが、やってくれるんだろうと思います。

先程、小学生の頃からの農業という話があったと思うんですが、その子たちがある程度の年齢になって農業に従事したいと思っても、儲かる農業でなければ、それで終わりだと思うんです。

ですから、儲かる農業の具体的なイメージをもう少し突っ込んだほうが良いのかなということ、観光と農業の話しか、前回もしてなかったと思うのですが、所得向上策に関してこの二つの柱で良いのか、まだあるのでしょうか。

田口知明委員 私は材木屋です。今、県の大型製材工場の構想が出ていますし、国としても2020年までに今の20%の自給率を50%まで引き上げると言っているの、国産材のニーズはこれから少しずつ高まっていくのかなと思っています。仙北市は非常に森林面積がありますので、農業と同じように林業分野・森林資源分野でも期待が出来るのではないかと思います。

今のままだと採算がとれないので、山には全然お金をかけていませんが、採算がとれるようになれば一つの事業として、この地域の重要な資産になるのではと期待しています。

藤枝優子委員 今は山関係の仕事に就く若い人が増えていますよね。

田口知明委員 はい。二酸化炭素の吸収を森林資源で行うということで、その為には育てていかなければなりません。間伐とか枝払いなどは、補助金を出して国の事業として行っているので、結構な雇用が生まれていると思います。
資料の中でも、木材製材の生産高が第2位です。これをもっと高めていければ、この地域の特性を生かせるのかなと思います。

平野英子委員 1次産業と3次産業はあるってことですよ。2次産業は無理なんじゃないですか。

島澤諭委員長 木材木製品製造業というのがあって、木を植えて育てて、それを加工すると製造業になります。例えば、木材をタンスにしたりして卸して売ると小売業なので3次産業になります。
農業と同じで拡がりがあると思います。木材製品もそうだし、それを利用した産業ということです。

田口知明委員 そうなんです。ただ丸太を売るのではなくて、加工して売る必要があります。
農業にしてもそうだと思います。作物がとれたからそれで良いって訳ではありません。

島澤諭委員長 家具は儲からないのでしょうか。

田口知明委員 儲からないというか、今は家具市場全体が厳しい状況です。大手でも、よほどのデザイン性とか付加価値が無ければなかなか厳しいです。

佐藤雄喜委員 木材か鉄鋼かで、彫刻品をブランド化するような話を聞いたことがあります。
財布とかだった気がします。

田口知明委員 どこかで見た気がします。かなり高いものだった気がします。
どこかの町工場で、アタッシュケースとかを作っていたような気がします。

門脇市長 仙北市には、潜在的な技術力がどれくらいあるのでしょうか。
以前からずっと話していますが、物作り産業が基本だと思っています。物作り産業の基本になる技術だったり、職人さんだったりを大切にしていこうという視点が少し薄いのではないのかなと思っています。そういうことにキッチリと対応していくことも、所得を高める為にはとても重要ではないかと思っています。
仮に今、技術者がいるとして、それが発展して色々なバリエーションが産まれるようなことがあったら、それに伴った技術者を移入するようなことも必要です。ですが、今の状況ではどんな人がいたらどうなるのか展開すらも見えなくて、そこら辺をもう少し明らかにしたい気がします。

平野英子委員 市にはこんな木材があるので何か作ってみませんかというように、在る物を宣伝して、それに反応してやってみたいっていう人がいたら、ここに来てやってもらえるような事をしたらどうでしょうか。

田口知明委員 秋田の美短でデザインしてもらった物をバス停に置いたりしていますよね。

門脇市長 専門家がいる前でしづらい話ですが、木材の品種によっての材質を最大限生かす製品というのが一つあって、その製品をどう見せるかというデザインの話が一つあって、どうやって売るかという話があって、その辺を上手く専門家がかみ合っていく必要があります。
例えば岩手県のある村では、給食の食器を全て自分のところでとれた木にしようという話から始まって、様々な木工製品の展開があるんですが、そういうことも必要なのかと思います。
トータル的なデザイナーが必要です。

田口知明委員 デザインは非常に重要です。

門脇市長 仙北市はそこが弱いと思います。物の見せ方が弱いということは、デザイン力が低いという話なので、今いる方々を大事にしなが、足りなかったら何処かから求めなくてははいけません。

島澤諭委員長 デザインって弱いんですよね。変な話ですけど、今いる人たちを大事にしても、やっぱりデザイン力は今ひとつなのかなと思います。

門脇市長 どれだけの容量があるのか分かりませんが、色んな分野での色んなデザインが基本なので、需要は沢山あると思います。

佐藤慎委員 仙北市で生産されている物・商品で、デザインを仙北市でやって、それが重要視されるような商品ってありますか。

門脇市長 それがありません。そこでさっきの話のように、鶏と卵のどっちが先かという話になるんですが、そういう物が無いからこういう状況になっているのではないのでしょうか。

佐藤慎委員 何かの商品のパッケージとかのデザインなどをしてることはありますが、商品のデザインというのは、あるとしたら住宅のデザインを建築士がデザインすること位でしょうか。

門脇市長 そういうデザイン力というか、見せ方のプロという人が必要だと思います。

島澤諭委員長 平野先生が言われましたが、頭脳と言ったら変かもしれませんが、そういう人を色んな分野で集めてくる必要があるんじゃないでしょうか、魅力が無いと集まってくれません。

門脇市長 少なくとも、角館とか田沢湖という名前の力は結構大きいです。
大体10人いると7~8人は「行きました、良かったです」とか「行きたいです」とか言ってくれます。それがリップサービスだとしても、これだけの魅力があると自分たちは錯覚してしまうんです。これを生かし切れていません。

杉宮百合子委員 夏に田沢湖に行きました。子どもが泳いでいたら寒くなったというので、温かいシャワーを探していました。使えるか聞いてみたら水しか出ないって言われました。そこで、近くのホテルに行ってお風呂を借りようと思ったら、貸してもらえなくて、水沢まで行くように言われました。
子どもはブルブル震えているのに、自分では何も出来ませんでした。沢山の人が来ていたので、皆さん寒かったんじゃないか、こういったところをなおしてくれたらなと思いました。
以前は温かいシャワーが使えたのですが。

門脇市長 みんなが不満を持って帰って行くパターンかもしれませんね。もしかしてこんな話はいっぱいあるんですかね。これらの苦情はどこに蓄積されているんでしょうか。

島澤諭委員長 クレームを集めて商売にしている企業があります。
そこで、例えばTICで仙北市に来て嫌だった点を集めると、マスコミを通じて宣伝したりすると山のように集まるかもしれません。
ただし、改善されるかは別問題ですし、これだけ言ったのに直っていないみたいな逆効果になる場合もあります。

佐藤慎委員 観光協会などでは分かっているんじゃないでしょうか。それを、その商店に伝えるかどうかとか、公表するかしないかと、躊躇する場合があります。だから良くなりません。

佐々木恵美子委員 今日の会議があることで、友だちに何か無いかって聞いたら、夏瀬温泉から抱返神社までを一年通して通行できるようにして欲しいという話がありました。

門脇市長 以前からずっと言われています。
 県の事業で、とても新しい工法で壁面改修をやったんですけど、その先が9km位あるんです。ここは、この前の雨の時も散々な状況になっていて、まずは、その散々な状況を改修していくという状態です。

佐藤慎委員 あそこは、直しても直しても、次から次へと崩落していきます。橋が落ちたりもしています。

藤枝優子委員 花見のシーズンになると、登山靴を履いて、リュックを背負って、これから行きますっていう人がいます。「通れるんですか？」って逆に聞いたりしているくらいです。

門脇市長 地元の方々からは、自分たちが案内人になるから要望があったら教えてと言われていています。
 ところが、あそこは県立自然公園なので、責任を持ちきれんかという話になって来るんです。まだ改修が出来ていないところを、あなたたちがパトロールしたり、人を連れていったりして、何かあった場合どうするんですか？という話で、その問答がここ2年位ずっと続いています。
 だけど、みんなから要望があって、ダムの上を歩いて温泉まで行けてなどというアイデアが出ています。、県立自然公園の中で仙北市が出来ることは何なのかという話ですから、もう少し時間をくださいとお返事いただければと思います。
 そろそろ時間でしょいか。

島澤諭委員長 皆さんお忙しいと思いますので、あと10分にしたいと思います。
 所得の向上策は今日限りだと思うので、思いの丈を語っていただければと思います。

杉宮百合子委員 若い人とかの仕事が無いんですが、やっぱり、大きい会社とか仕事を持って来ることは難しいことなのでしょうか。

佐藤雄喜委員 他県の例ですが、大きい会社を持ってきても、まわりの企業でそこに納品出来なかつたりすることがあるようです。人はある程度増えると思います。ただ、まわりで事業をやっている人が潤うかというところでも無いようです。市町村にとっては税収面などで潤うと思います。

門脇市長 去年、一昨年と食品関連会社とか精密機械会社とか何十社も訪問しています。
 ですが、地理的条件の話がまず第1にあって、冬期間の暖房費の話があって、除雪の経費は市で持ってくれるんですかということも聞かれます。そもそも、良質の人材がいるんですか、農業が忙しいからといって休めませんよという話があって、色んな条件を突きつけられて、悲しく帰って来るといった状況があります。

佐藤慎委員 若者の定住化ということを考えると、看護学校を作れば、学校が存在する限り若い女の子はいる訳なので、そうすると、単純な発想ですが男もここにいるのかなと思います。
 しかし、看護学校は横手に出来たので、介護の学校とかは出来ないのかなと思ったことがあるのですが、どうなんですか。
 世の中にそういう物が存在するかということ自体が僕には分からないんです。

佐藤雄喜委員 福祉大学は青森とか八戸とか弘前とかにあると思います。

門脇市長 大館にある学校は福祉系ですよ。

佐藤慎委員 大学か専門学校かは分からないんですが、そういうのを誘致してきて、秋田県内の男女問わずに入ってもらおう。そうすると、このまちに若者は常にいることになります。
 お年寄りが増えるなら、そのお年寄りを受け入れる施設を沢山作ると人口が増えるし、若者も増えるし、ということで有効策かなと思います。

藤枝優子委員 学生向けのアパートですが、仙台はすごく安くてビックリしました。

佐藤慎委員 今の状態で誰かがそれを作ってしまうと、一気におかしくなってしまうというか、今までアパートを建てたアパート経営者が大変になってくると思います。

藤枝優子委員 ここら辺でも、学校が出来れば需要が出てくるのではないのでしょうか。

佐々木恵美子 寮のような物を作って、賄いのおばちゃんを雇えば雇用が生まれたりします。

門脇市長 キャンパス誘致事業ということで、マニフェストに書いてあります。

佐藤慎委員 介護ってというのは良いのかなと思います。

杉宮百合子委員 介護員自体は沢山いるんですけど、やっぱり、働く場が無かったりします。

佐藤慎委員 商売として成り立たないんですか。

平野英子委員 医者がない現状があります。

佐藤慎委員 根本的なところを伺いたいのですが、施設を建てるなら医者が必ず一人は必要だとか、提携する医者が必要だとかということなんですか。

門脇市長 そうなんです。医師不足故に施設が増やせないんです。

佐藤慎委員 そうすると、例えばお医者さんがいて施設を建てました。そうすると、お客さんは来るのでしょうか。

門脇市長 一概に言えない部分があるかもしれません。

杉宮百合子委員 デイサービスは、お医者さんがどうこうというのがなくて、かかりつけのお医者さんに家族が連れて行ってくれます。でも、泊まる所となるとお医者さんが必ず必要です。

佐藤慎委員 介護とまではいなくても、例えば高齢者専用賃貸住宅とか、ああいったものでこっちに憧れている人を東京から呼んだりしてはどうでしょうか。
一軒家だと色々大変でしょうけど、集合住宅ならどうでしょうか。

平野英子委員 そうなると、スタッフが揃っている病院じゃないと、病気の時はどうするんだということになります。

門脇市長 今日の会議で自分が一番反省しているのは、色んな意見が出てきても、経験からいうと難しいですよとなってしまいがちです。それはやめたほうが良いと思っています。
どうやって乗り越えるんだという話をしないと、今の介護の話でもそうなんです、結構大変なんですよとなって、そうすると何も出来なくなってしまいます。
先ほど企業誘致の話聞いたとき、昔は自分もそうだったと思いました。職場を他から誘致することに随分頑張っていたなと思いました。今、へこたれている自分いるんですが、それでは駄目なんだと改めて思いました。

田口知明委員 将来ビジョン策定委員会という場ですから。

佐藤雄喜委員	今、仙北市にある企業をもっと大きくしていくということは、市としては無理なんですか。
門脇市長	<p>考え方が二つあって、一つは、何年経ったら誘致企業という看板がとれて地元企業と言ってもらえるのか、という人たちがいます。それも含めて、今ある企業の方々を、出来るだけ大きくしていく為の企業育成をどう進めていくかという手法です。もう一つは、今は市に存在しない業種の企業を誘致してくることで。誘致という考え方には、地元には無い物を生み出す為に相談があったら応援するというものも含まれています。</p> <p>だから、基本的には二つのコースがあるというか、二つの話になります。</p> <p>企業を応援していくというのは、この前から始まったばかりで、例えば仙北市で企業連絡協議会を立ち上げさせてもらって、そこで横の情報交換をしてもらって、溝を埋めていくということがやっと始めてもらえたという状況です。</p> <p>あとは、制度資金などの活用については、市役所がきちんと窓口になって、様々な資金の活用について仲立ちをしようという話です。</p> <p>ですから、基本的に市がどうこうというのはなかなか難しいところがあります。</p>
島澤諭委員長	<p>何も無いところという話でしたが、例えばお米があったら、そのお米を材料として使う補完的な企業があったら良いなどという要望などは無いのでしょうか。</p> <p>全く新しい物や全く関係ない物よりも、関連企業のほうが来やすいと思います。</p> <p>予定した時間を少し超過しましたが、所得の向上については以上でよろしいでしょうか。まだまだ時間があれば良いのですが、限られていますので、市民所得の向上については閉じたいと思います。ありがとうございました。</p> <p>その他についてです。</p>
5 その他	
事務局	<p>次の開催日と案件についてですが、開催日は3月の中旬以降にしたいと思っています。</p> <p>以前、委員長とお話ししましたが、テーマはマニフェスト順ということで、回数の関係で1つずつは出来ないかもしれませんが、その順序で話を進めていきたいと考えています。</p> <p>委員長と調整しまして、日程とテーマだけはすぐにでもご連絡したいと思います。</p> <p>皆さんの3月中のスケジュールを教えてください。調整がつかなければ4月も検討します。</p> <p>(スケジュール確認)</p>
事務局	<p>急な欠席などの場合は、テーマに沿ったご意見などを頂戴したいと思います。</p> <p>予定の時間を過ぎましたが、これで第3回将来ビジョン策定委員会を終了します。</p> <p>ありがとうございました。</p>
6 閉会	